幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　２８　号
令和　３年　１月　１日

立烏帽子袴長引き小刀（ちいさがたな）
素袍（すおう）の袖ぞ張って舞ひつゝ
北原　白秋　短歌

わが国中世芸能として約七百年の伝統に輝く幸若舞は、歌舞伎をはじめ、すべての芸能や文学に大きな影響をあたえ、日本芸能史の研究に見逃すことのできない舞楽として注目を浴びている。

室町初期のころ武士道鼓吹の舞曲としてはじまり、足利時代より、信長、秀吉をはじめ、徳川幕府の初期まで幾多の武将に愛好され、また諸国大名によって奨励されたため、大いに隆盛をきわめた。

徳川の中期より、能曲、俗歌などが盛んになるにしたがって次第に衰え、その発祥地のわが越前町でも後を絶ったが、福岡県みやま市瀬高町大江に「大江のめえ」とよばれて昔日の姿をそのままに伝えている。

毎年一月二十日、五穀豊穣を祈って大江天満社の幸若舞堂において奉納されています。昭和五十一年五月、国指定重要無形民俗文化財の指定をうけた。

幸若舞を最初に全国に紹介された高野辰之博士の漢詩である。（明治四十一年作）

招魂社畔鼓聲頻　招魂社の畔鼓声頻りに
秋夜謡深感鬼神（む）　秋夜謡深くして鬼神を感ぜし
古曲調高幸若舞　古曲調べ高し幸若舞
不加技巧算天真　技巧を加えず天真を算る

【口語訳】
招魂社（大江天満社）のかたわらから鼓の音が頻りに聞こえてくる。（今日の）秋の夜に、謡はいよいよ盛り上がり、神霊さえ感動させるほどだ。（これこそ）古曲そのまま、曲調高逸、幸若舞だ。人為技巧は加えず、ひたすら天然自然の純真さを表現している。

大江天満社

文章・山口信嗣顧問新春によせる

高野辰之　明治９年～昭和２２年　長野県生まれ　国文学者
大正３年文部省唱歌として発表された「ふるさと」の作詞者としても知られている。

長老に聞くむかしの西田中

西田中の市街地でも、空き家が増え、空き地が増加して、歯抜け状態が進行しています。

また、地区行事や神社等の行事に関しても簡略化が進み、昔の風情がどんどんなくなりつつあります。

このような状況は一面では時代の流れとしてやむを得ない面もあり、復活は困難でしょうが、むかしの西田中の状況を記録して残すことはそれなりに意味があることでしょう。それも政治的な大状況はそれなりに「〇〇誌」などに記載されておりますので、それとは別にあくまでも日常生活の側面からの些事も含めて記録を残したい。

現在でも、町内には戦前・戦後を生き抜いてきた元気な人たちがまだたくさんいらっしゃいます。その人たちの実体験に基づく、肉声による記録が重要です。

このため、朝日地区コミュニティ委員会と協力して、区内長老などのみなさんへの聞き取りヒアリングを始めています。（その一部を三面に掲載しています）ご提案・ご意見をお寄せください。

約五〇年前昭和四五年頃の西田中本通り

幸若旧屋敷跡を現地標示

FBC基金の使途の一部として幸若関連旧跡への石碑設置が検討されていましたが、昨年一〇月末その第一、二号が西田中月田理髪店西北隅、田島清喜氏宅東南隅に朝日地域コミュニティ運営委員会と共同でそれぞれ設置し、屋敷跡を標示しました。設置費用は約二一万円です。

長老に聞く(その1)白山神社
橋谷義孝さん 90歳

平成八年、氏子副総代をさせていただいたとき、大祭・中祭・小祭の時の神饌品目や神饌の並べ方・供え方　白山神社祭礼諸準備要項を、白山神社備忘録として作成しました。平成一一年一二月に補正しました。その頃は、佐々生の佐々牟志神社の田中宮司さんにお越しいただきお祓いをして頂いておりました。大祭になると三人ほど宮司さんがこられていました。現在は気比庄地区にお住まいの気比神社の角鹿宮司さんが務めておられます。

お正月と秋祭りの際は巫女さんが浦安の舞を奉納してくれています。西田中地区の女の子で小学五年生から中学二年生くらいまでの間、お願いしていました。一度に四人が浦安の舞を卒業してしまうと踊りが継承していかなくなるので二人ずつ学年を変えてお願いしていました。私の代で一度四人が全て変わってしまった時に、福井市清水地区の賀茂神社にお願いし何度が浦安の舞の指導を受けに行きました。その後はビデオを撮影し残していくようにしました。

白山神社には神様が五柱いらっしゃいます。伊邪那美、須佐能尊、祇園牛頭天王、白山大権現、八幡大菩薩様です。また、拝殿の奥の棚に袋入って一〇四体～一〇七体ほどの石人形と思われるものがございます。大きさが一体八センチメートルほどの小さなもので、拝殿の下に置かれていたものを拝殿の棚に置き換えました。男の子が生まれた時にお供えしたものか、初子のお祝いなのか水子供養なのか？なぜ拝殿の下に置かれていたのか今でもわかりません。

その他に、稲荷神社と菅原道真公を祀った筆神社と針供養の祠が設置されています。稲荷さんは三谷一英(こんにゃく屋)さんがその頃は管理されていました。昔は神社の裏におられたお稲荷さんですが、神楽殿の建設の時今のところに移転しました。筆神社(昭和四一年九月再建)と針供養の祠は白山神社に向かって右側のところにひっそりと建立されています。ご存知ない人が増えてきていると思います。

筆神社(梅鉢の紋のあるほこら)は使い古した筆を納めて学問の上達を祈願する神社で毎年左義長に集まった古筆を焼却する慣例となっていました。筆・針供養は、それぞれ毎年二月八日、一二月八日に行われたといわれてきました。

白山神社の過去帳は氏子総代が持ち回りするものです。

また同神社は現在の位置に移設される前は、元丹生警察署の裏手にありました。現在の朝日楼さんの道を隔てた前です。

(以下次号)

聞き取り期日…令和二年九月一八日

聞き手…橋本守行、平井勝治、木下愛望

今回は白山神社に関する部分について掲載しました。

第八九回幸若講座開催

第八九回幸若講座が、一一月二七日一四名の会員が参加して町図書館幸若研究室で開催されました。

山口顧問から、第七六項諸家文書に見える幸若家の様態から、第八一項「源氏桃井氏系略譜」に見る桃井九郎左衛門家由緒までについて講義を受けました。越前町内外の有力者に所蔵されている幸若関係文書は、借用証文が多く幸若諸家の家計が苦しかったこと、大江幸若舞の祖を弥次郎とすることには疑問があること、明治維新後の桃井家の多くの人々は、東京に引揚げ東京士族となったが、分家筋の人たちは西田中周辺に残ったり、東京からまた戻った人たちもいたこと、……などについて理解を深めました。

幸若講座は一二月と一月は休会とし、次回は二月二六日(金)開催予定です。

講演「橋本左内の先祖たち」

気比神社宮司・角鹿尚計

一一月二九日朝寿殿和室において、気比神社宮司・角鹿尚計氏から、「橋本左内の先祖たち」と題して、ご講演をお聞きしました。

その要旨は以下の通りです。

・橋本左内は天保五年（一八三四）福井城下に生まれた。同時代人に松平春嶽、西郷隆盛、由利公正らがいる。

・左内は幸若子孫の家系であるが、宝泉寺庄兵衛家の系統である。紀州徳川家に仕えた正信の子・長氏から母方の姓の橋本を名乗るようになった。

・ただこの橋本氏は源姓足利氏一門ではなく橘姓楠木氏一門の橋本氏であった。

・長氏の子・長徳が福井藩医・橋本家の祖となる。西洋外科医術を得意とした。

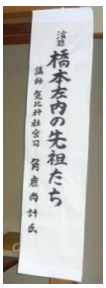
・長徳から数えて七代目が左内兄弟ということになる。ただ、橋本家が桃井氏の支流ということは強く意識しており、京都での政治工作中の変名の一つに桃井伊織がある。

・左内が春嶽の側近として登用された後は、医家としての伝統は次弟の綱維と末弟の綱常が継ぐことになる。

・左内が刑死した後は、この綱維が左内家を継ぐことになった。

・末弟の綱常はその後藩医橋本家を相続し、明治以後は陸軍病院および日本赤十字病院の創設に尽力し、帝国大学教授も務め、明治四〇年授爵（子爵）し、同四二年没した。顕彰碑が東京青山・長谷寺に建立された。

前号でもお知らせしましたように、橋本左内パネル展が町図書館２階ホールで３月２５日まで開催中です。



角鹿尚計　昭和３５年　大阪市生まれ
昭和５８年　皇學館大学文学部卒業、福井市立郷土歴史博物館学芸員
平成１４年　気比神社宮司就任
平成２７年　福井市立郷土歴史博物館館長就任
令和　２年　文学博士（皇學館大學）